

# もっと知りたい ふるさと

8

## 道標が誘う 八幡街道

千曲市八幡の武水別神社（お八幡さん）へお参りする人々が往き交った、わずか六キロメートル程の街道がある。北国街道下戸倉宿今井町から上徳間―千本柳―小船山―中を通って八幡へ至る八幡街道である。石造の道しるべが案内してくれる鄙びた街道だ。千曲川右岸で石造文化財が数多くみられ、北国街道と善光寺西街道を短く結ぶ役目も果たしていた。

今井町の国道十八号線わきに起点の道標が立っている。正面には「左おぼすてやはた道」、裏面には「南無阿弥陀 佛」、側面には「明和元甲 申八月星宿」とあり、一七六四年の建立である。（写真①）ここから八幡小路と呼ばれる道を西北へ向い、上徳間を過ぎて中徳間に至る。二十三夜塔や宗匠宮入又三郎翁の句碑を読み旧興隆寺跡に立つ。堤防直下の興隆寺跡は、昭和三十三年羽尾の明徳寺に併合されて小さな堂のみを残している。街道はこの先で千曲川の堤防工事により消失し途切れている。中徳間から北上すると千本柳



① 今井町の道標

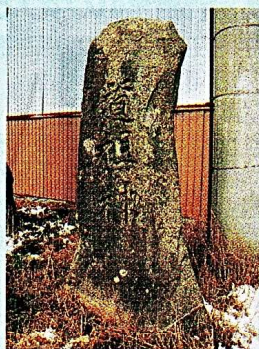
である。両地域の境付近千本柳の上川原地籍に、旧黒彦村の赤石の道標が安置されている。正面には「右いなりやま左やはた是より一里三町四十五間」、裏面には「黒彦村」とある。（写真②）八幡道と稲荷山道の分岐点で見事な道案内である。この道標は忘れられ、棄てられる寸前を地元の有志により安置されたものという。



② 上川原の道標

水田の中を進んだ街道は、地元で『熊の権限』と呼んでいる石仏や黒彦神社境内の石碑・諸神をはるかに仰ぐ。さらに近くには寺小屋師匠であった米沢治国翁筆塚がみられる。その先、

往時『町』と呼ばれて栄えたという辺りを過ぎて甲組作業所前に出る。ここに千本柳中組の道祖神が立つ。道祖神右下に「右やはたみち」の道案内が刻まれている。北川原道標という。（写真③）この地は往時あったという須坂三島への『三島の渡し』方面の分岐と考えられ、そのための案内であろう。



③ 北川原の道標

千本柳の北方は小船山である。小船山の清水地区にも、かつては店があった由である。その先、名峰冠着山を西に望む地に大きな句碑がみられる。（写真④）「雲理無き月遠こ路能か、三可那」（曇りなき月を心の鏡かな）梅馨庵亀翁 本名野上七郎の句である。野上七郎は天保九（一八三八）年小船山に生れ、俳人として知られる。書画・花道・折形や生活一般の指導者で、五加尋常小学校中分教場の教師も勤めた。



⑤ 中区堤防上の水天宮

八幡街道はこの先明確ではない。耕地区画整理事業で街道の姿は変わってしまった。中区南地区西側の土手に、往時の街道の姿が残されている。これを過ぎて堤防に上がる。ここに数基の水天宮と馬頭観世音碑が安置されている。（写真⑤）水防と旅の安全を祈ったものである。街道はここから千曲川の河原へ下り、『中村の渡し』で八幡へ渡った。現在は下流百メートルのところに、すばらしい平和橋が架けられ交通の要衝となっている。



④ 小船山の道標

参考文献 戸倉町の文化財（石造文化財編）  
戸倉町教育委員会 竹内 長生